



すぐすぐ
くみみどり

No.33

緑のインテリア 観葉植物を愉しもう

公益財団法人札幌市公園緑化協会



すぐすぐ みどり

No.33

- 2 はじめに
- 3 あなたの栽培環境はどのタイプ?
- 5 Aタイプ 東向きのお部屋
- 9 Bタイプ 南から西向きのお部屋
- 11 Cタイプ 北向きのお部屋
- 13 Dタイプ 玄関
- 14 Eタイプ キッチンやバスルーム
- 16 エコでクリーンな栽培を楽しむ
- 19 観葉植物の基本の管理
- 21 土づくりをマスターしよう
- 23 コンパクトに育てる植替え・株分け
- 27 観葉植物につきやすい病害虫
- 29 よくあるトラブル Q&A
- 31 令和6年度
札幌市都市緑化基金事業報告



はじめに

観葉植物は、室内で一年を通して美しい緑を観賞することができるところから、個人宅にとどまらず部屋の雰囲気作りやインテリアとして様々な場所で親しまれてきました。

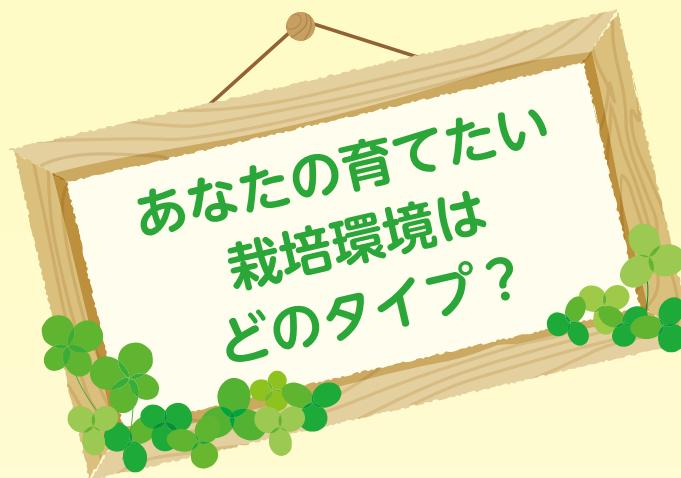
みなさんも街なかのおしゃれなカフェの店内で、手入れの行き届いた植物のディスプレイに落ち着いた印象を持ち、リラックスできた経験はありませんか。自宅にもこんな素敵な雰囲気の植物を置いてみたいと思われ、何の植物だろうと興味を惹かれた方もいるのではないでしょうか。

最近では、園芸店に立ち寄ると個性的でかっこいい植物や、はじめてみる珍しい植物が並んでいるほか、長年見慣れている植物の中にも斑入りの葉や室内で育てやすい小型種など、新しい品種も次々に出てきています。

このすぐすぐみどりでは、限られた環境であっても気軽に緑を暮らしの中に取り入れていただけるよう、室内の環境別に育てやすい植物を紹介し、育て方のポイントを解説しています。

また、従来の土で栽培するものから、トレンドの着生栽培や水耕栽培など土を使わない栽培方法も紹介していますので、それぞれの室内環境に合う植物を見つけて、より身近な存在として緑を楽しんでいただけたら幸いです。





観葉植物は、他の植物と比べて様々な環境に耐えることができるものが多いため、割りと病害虫にも強いため、初心者の方でも気軽に栽培を始めることができます。

しかし、そのような栽培しやすい観葉植物とはいって、栽培環境が合わなければどんどん弱ってしまいます。

栽培環境と観葉植物の相性を知ることが、上手に栽培する最初のステップ！

まずはご自宅の栽培環境がどのタイプなのか確認して、適した観葉植物を見つけてましょう。

本号での観葉植物とは、植物の葉の形、大きさ、色、模様などを楽しむ栽培植物として、室内の直射日光の当たらない場所でも育つ植物を紹介しています。

D TYPE 玄関

窓があっても日当たりは弱い、温度は低く、湿度はやや高い → [P.13](#)へ

B TYPE 南から西向きのお部屋

西向き…日当たりは良い～半日陰
南向き…日当たりは良い
どちらも温度は高く、湿度は低め
→ [P.9](#)へ



E TYPE キッチンやバスルーム周辺

日当たりは方位によるが、温度は低い～普通、湿度は高め
→ [P.14](#)へ



C TYPE 北向きのお部屋

日当たりは弱い、温度は低い～普通、湿度は普通 → [P.11](#)へ

A TYPE 東向きのお部屋

明るい半日陰、温度と湿度は普通
→ [P.5](#)へ



どんな植物もよく育つ

東向きのお部屋



午前中の柔らかい日差しが入り、温度が上がる午後には日陰になる東向きの窓辺は、温度や湿度の変化が少なく植物にとって最適な環境です。多くの観葉植物がすくすくと育ちます。

メリット

- 葉や鉢が高温になりすぎない
- 日差しが柔らかく、葉焼けしづらい

デメリット

- 花を咲かせる植物にとっては少し光量が不足する場合がある

初心者向き

パキラ



柔らかく大きな葉と、株元のぶっくりとしたフォルムが特徴的です。耐陰性があり寒さにも比較的耐えるので、北向きや玄関でも育てることができます。白い斑が入る‘ミルキーウェイ’は、涼しげでとても美しいですが流通は少なめです。

パキラ

難易度 ★
最低温度: 5°C

シェフレラ類



シェフレラ類では丸みを帯びた葉を掌状に広げる‘ホンコンカポック’が有名です。‘ツピタンサス’、‘ブラッサイア’なども同じ仲間です。耐陰性があり寒さにも比較的耐え、徐々に慣らしていくと強めの日光でも育ちます。

難易度 ★
最低温度: 5°C

Point

葉が薄いので、急に強い日光を当てる葉焼けがあるので注意しましょう。

強風にも弱く簡単に葉が落ちてしまいます。

Point

耐陰性はありますが、日陰に長く置きすぎると葉がバラバラと落ちることがあります。その場合は日当たりの良い場所に移動してみると、また新芽が吹きやすくなります。

フィカス類

難易度 ★
最低温度: 5°C

たくさんの種類があり、樹木タイプのフィカスは入手しやすく、環境にも順応しやすいことから、比較的育てやすいものが多いです。成長が早いもの、遅いもの様々ですが、枝を切っても再生しやすく、好きな形や大きさに整えやすいのが大きなメリットです。



フィカス・アルティシマ

ベンジャミンゴムノキ

フィカス・ウンベラータ

フィカスの仲間

- ゴムの木（インドゴムノキ、ベンジャミンゴムノキ、フランスゴムノキなど）
- フィカス・ウンベラータ
- フィカス・アルティシマ
- フィカス・トライアンギュラス
- ガジュマル
- つる性フィカスなど

Point

斑入りタイプのものは、日が強すぎるまたは弱すぎると白い部分から枯れることがあります。やや日陰な場所では、葉を美しく保つことができる緑葉タイプがおすすめです。つる性フィカスは土の乾燥を嫌うため、土の状態を見ながら乾いたらすぐに水を与えるようにしましょう。

ドラセナ&コルジリネ

難易度 ★
最低温度: ドラセナ/10°C、コルジリネ/5°C

細長い葉がシャープな印象を与え、色や模様のバリエーションが豊富です。「幸福の木」で有名なドラセナ・フレグランスや、細い葉が美しいドラセナ・コンシンネが人気です。コルジリネはドラセナに姿がよく似ており、混同されやすいですが別の種類の植物です。地下茎の有無以外で見分けるのは難しく、ドラセナには地下茎がなくコルジリネにはあります。基本的な育て方は同じです。



コルジリネ‘アイチアカ’

コルジリネは地下茎が肥大します。コルジリネ‘アイチアカ’はダークレッドの葉に鮮やかなピンクの斑があります。

Point

ドラセナは寒さに弱いので、10°C以上を保つ場所で育てます。日当たりが良い方が柄や色がはっきりとしますが、強すぎると葉色が淡いものは葉焼けを起こすことがあります。コルジリネはドラセナに比べて寒さには強く5°C以上あれば育ちます。

カラフルな葉を楽しむ

アンスリウム

難易度 ★★
最低温度: 10°C

花は真ん中の黄色い部分で、仏炎苞と呼ばれる鮮やかな葉が魅力の植物です。高温多湿の環境を好み、花を咲かせるには日当たりの良いところで育てますが、直射日光のような強い光は苦手です。



アンスリウム

Point

強い光や寒さ、乾燥などストレスがかかるとわき芽が多く出てしまい、葉や花が小さくなってしまいます。わき芽は全てつみ取り頂点の芽を残すと葉が大きな状態を保てます。

レックススペゴニア

難易度 ★★
最低温度: 10°C

葉の色、柄ともに多種多様でカラーリーフとして、寄せ植えにも活躍します。ひっそりと小さな花も咲きます。日陰でも育ちますが、間延びしやすく、発色が悪くなるのでなるべく日当たりの良いところで育てます。



レックススペゴニア
'オータムエンバー'

Point

暑さと蒸れに弱いので、風通しの良い場所を選びましょう。水は好きですが、土の過湿に弱いため、土が乾いた状態になってから、すぐに水を与えます。

アグラオネマ

難易度 ★
最低温度: 15°C

葉の模様がとても美しく、白や赤い斑、迷彩柄など様々です。耐陰性に優れるので日当たりの悪いところでも育ちます。生育がゆっくりでコンパクトな株立ちになるので、とても扱いやすいです。



アグラオネマ

Point

寒さが苦手なので、15°C以上に保てる暖かい場所で育てます。多湿を好むので、乾燥する場合は1日1回霧吹きをしましょう。

シンゴニウム

難易度 ★
最低温度: 10°C

小さいうちは株立ちで育ちますが、成長が進むにつれて良くなっています。ホワイトやピンクの葉、斑入りなど種類も豊富です。ギュッとしまった株に作る場合は、なるべく日当たりが良いところで育てます。



シンゴニウム
'ミルクコンフェッティ'

Point

葉の付け根から簡単にわき芽ができるので、長く伸びすぎたら好きなところでカットしてOK。発根も容易なので、挿し木も比較的簡単です。

大きく育つ

エバーフレッシュ

難易度 ★★
最低温度: 5°C

ネムノキに似た小さい葉が密に付き、まるで羽のように広がる姿が美しい植物。丸いポンポン形のクリーム色の花も付けます。夜になると葉を閉じ、朝には再び葉を開く「就眠運動」を行います。



エバーフレッシュ

Point

水を好む植物なので、土の状態を見ながら、乾いたらすぐに与えます。水切れを起こすとパラパラと葉が落ちるので注意が必要です。春～秋は戸外の明るい日陰で育てると丈夫に育ちます。雨に当てもOK。

モンステラ

難易度 ★
最低温度: 5°C

切れ込みの入った大きな葉が特徴の植物です。品種によって背丈を越すほど大きく育つので、インテリアとしても存在感は満点です。幼株のうちは切れ込みがありません。



コンパクトに育てたい場合は、小型の「ヒメモンステラ」がおすすめです。

モンステラ

Point

横に伸びる性質があるので、支柱を立てるなどこまめに仕立て直します。大きくなりすぎたら切り戻しを行いましょう。自体を支える気根と呼ばれる根を、茎から出します。不要な気根は切ってもOK。

コーヒーノキ

難易度 ★★
最低温度: 10°C

艶のある美しいグリーンの葉が魅力です。株がある程度大きくなると、実を付けることもあります。成長がとても早いので、定期的に剪定が必要です。太い幹でバッサリ切っても、わき芽を出すほどたくましい植物です。



コーヒーノキ

Point

日光を好む一方、南～西日など強い日差しは苦手です。葉が黄色みがかったり、窓から少し離すか、レースカーテンをかけるなど日差しを和らげる工夫をしましょう。春からは戸外に出し直射日光を避けた半日陰で育てると、がっちりした株になり実も付きやすくなります。

フィロデンドロン類

難易度 ★
最低温度: 10°C

400以上もの種類があり、茎が直立するタイプや、つる性タイプがあります。切れ葉が美しい「セローム」や「ツッカバラ」、白い縞模様の「バーキン」、つる性の「オキシカルデイウム」などが流通しています。耐陰性もあるので北向きの窓辺でも十分育ちます。



フィロデンドロン
'バーキン'

Point

日が強すぎると葉焼けを起こします。葉が黄色みがかったり、枯れが入るような場合はレースカーテンなどで遮光しましょう。空中湿度*は高めを好むので、乾燥する場合は霧吹きをします。※空中湿度: 株の周辺の湿度

B
TYPE

日当たり抜群

南から西向きのお部屋

日当たりが良いほうが植物にいいと思いがちですが、実は思わぬ落とし穴もあります。特に南～西向きのお部屋は植物によってはつらい環境になる場合もあります。

メリット

- ・日差しが強く、がっちりとした株に育つ
- ・花を咲かせる植物は花付きが良くなる

デメリット

- ・葉の表面や鉢の中の温度があがりやすい
- ・乾燥が早く、水やりが頻繁になる

乾燥に強い

ユッカ



ユッカ

難易度 ★
最低温度: 3°C

アデニウム



アデニウム

難易度 ★★
最低温度: 5°C

別名「青年の木」とも呼ばれる、尖った葉が特徴の観葉植物です。強い光を好むので、春から秋は戸外に出して、しっかりと日に当ります。乾燥には強いので、土がしっかりと乾いて鉢が軽くなっているから水をやりましょう。

Point

日光が弱いところで、多めに水を与えると根腐れしやすくなります。幹に縦じわが寄ってきたら要注意。水を与えても戻らない場合は、一見すると枯れた様子はなくとも中で腐れが進行している可能性があります。

葉を楽しむ果樹

オリーブ

難易度 ★
最低温度: 5°C

シルバーがかった葉が美しく、観葉植物としても人気の果樹です。春から秋は戸外に出してしっかりと直射日光に当てます。-3°C程度まで寒さに耐えますが、5°C以上を保つのが安心です。

実を付けるには2品種以上の株と、冬に寒さ(10°C以下に1か月ほど)に当てる必要があります。



オリーブ

アボカド

難易度 ★
最低温度: 10°C

種からでも簡単に育てられるので、芽出しから観察するのも楽しい植物です。

実を付けるには鉢植えでは難しいため、葉を愉しむ植物として扱います。大きな葉が魅力的ですが、日当たりが悪いと軟弱になりやすいので、しっかりと日に当ります。



アボカド

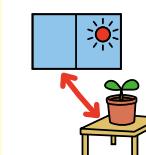
Point

枝が勢いよく伸びるので、毎年春に形を整えてあげます。どこで切っても芽吹きはよいので、コンパクトに作ることも可能です。

日差しが強すぎるときは…



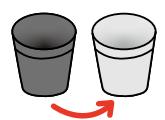
レースカーテン越しの日差しに当てる



窓から離す



鉢カバーや二重鉢にする



白っぽい鉢を使う

日光が強いと葉の表面温度が上がり、植物が弱る原因になります。レースカーテン越しの日差しや少し窓から離すなど光を和らげる工夫をするだけで、ぐっと温度を下げることができます。また、黒やグリーンなど暗い色の鉢は太陽光を吸収して、鉢内の温度が上昇しますが、気温の高い時期には上がりすぎで根を痛めることも少なくありません。白い鉢は光を反射するため、鉢の中の温度上昇が抑えられます。鉢カバーなどをうまく利用すると、直接鉢に日が当たらないようになり、同時に緑のインテリアとしての個性も表れるでしょう。

Point

冬に温度が低いと葉がすべて落ちることもあります。葉が落ちた場合は、水やりをいったん止めて、春に芽が出始めたら徐々に再開していくと良いでしょう。



やさしい光が差し込む

北向きのお部屋



北向きのお部屋は日が弱く育ちにくいイメージがありますが、温度の急な上昇がなく、向いている観葉植物は多くあります。

メリット

- ・日差しによる温度の急上昇が少ない
- ・葉焼けを起こしにくい

デメリット

- ・冬は寒くなる場合がある
- ・花を咲かせる植物には光量が不足する

初心者向き

ポトス

難易度 ★
最低温度: 5°C

日陰にても強く、乾燥にも耐えます。つるが良く伸びるので、ハンギング仕立てがおすすめです。斑入りやライム色など種類も豊富で、初心者でも育てやすいでしょう。



Point

日光が強すぎると葉色が黄色みがかることがあります。逆に日光が弱すぎると、斑が消えることがあります。斑入り種では特に、緑の葉しかでない「先祖返り」が起きやすいです。このつるは勢いが強いため、斑入り株を保ちたい場合は、早めに枝元から取り除きます。

サンスベリア

難易度 ★
最低温度: 5°C

別名「トラノオ」とも呼ばれ、尖った葉をいくつも地中から伸ばします。多肉質で、乾燥にもよく耐えます。成長はゆっくりですが、地下茎でどんどん増えます。ある程度大株になると白い甘い香りのする花を付けます。



Point

土の過湿に弱く、根腐れを起こしやすいため、土がしっかり乾ききって鉢が軽くなつてから水やりをします。特に冬場などの寒い季節は水の与えすぎに注意します。

育成ライトの活用

日光が弱い場所での栽培には育成ライトの活用もおすすめです。吊り下げタイプ卓上タイプはコンパクトで、置き場にも困りません。



「フルスペクトラル LED」は太陽光に近く、熱を発しないので、育成に向いています。
照射時間 … 10~13時間程度を目安にします。
植物との距離 … 光の強さやライトの色味でも変わるので、商品の記載通りの距離を保ちます。

トックリラン

難易度 ★
最低温度: 5°C

別名「ポニーテール」とも呼ばれ、細長い葉が流れるように伸びます。幹の下部がトックリのようにずんぐりと膨らみ、とてもユニークな形をしています。従来のトックリランより葉が長く伸びるノリナ・グアテマレンシスが主流になっています。



トックリラン

Point

幹の部分に水をキープできるので、土の乾燥にも比較的耐えます。水やりは土が乾いたら、鉢底から水がしみ出るまでたっぷりと与えます。

ちょっとクセあり

カラテア&マランタ

難易度 ★★
最低温度: 15°C

近年流通が増えてきたリーフプランツで、絵画のような葉柄の美しさにファンが多い観葉植物です。熱帯性の植物なので、寒さには弱く、暖かい北向きのお部屋がおすすめです。葉は夜になると閉じ、昼になると開く「就眠運動」を行います。



マランタ・レウコネウラ
ケルショベアナ

Point

低温に当たると葉が丸まって、元に戻らないことがあります。乾燥が強すぎても、葉先から枯れやすくなります。高温多湿な環境を好むので湿度が低い場所ではこまめに霧吹きをしましょう。

スペティフィラム

難易度 ★
最低温度: 10°C

日陰に強く育てやすいです。艶のあるグリーン葉や斑入り葉が美しく、自然にきれいな株立ちにまとまります。

白い花のような形をした葉(苞葉)も魅力です。生育が早く、10°C以上を保てば常に葉を出し続けてくれます。



スペティフィラム 'ミコ'

Point

生育が早く根詰まりしやすいため、1~2年に1回は植え替えや株分けをします。根詰まりすると葉色が悪くなり、葉先が枯れやすくなります。苞葉を多く出すには、直射日光をさけた明るい半日陰で育てます。日差しが強すぎると葉色が黄色みがかることがありますので、様子を見て加減しましょう。

ピレア

難易度 ★★
最低温度: 10°C

葉の形や色、模様など見た目が全く異なる品種がたくさんあります。シルバー・ライム、グリーンなどカラーリーフとしても観賞価値が高いです。

日が弱めでも葉の美しさは保てますが、成長しやすいので、明るい半日陰で育てます。



ピレア・モリス
'ムーンバレー'

Point

生育が早く枝が良く伸びるので、こまめに摘心をすることで、こんもりとした株にできます。年に1回春に、根元5cmほど残してバッサリと切ると新しい芽が出てコンパクトに仕立て直せます。



日当たりが弱く、冬は寒い 玄関



寒さに強く、日陰に強い観葉植物を選び、日光が差し込む環境であれば育てることは可能です。

メリット

- ・湿度が高めで乾燥しにくい

デメリット

- ・冬に寒くなりすぎる場合がある
- ・光量が不足することがある

初心者向き

オリヅルラン

難易度 ★
最低温度: 3°C

細長い葉が柔らかく広がり、ランナーと呼ばれる子株もよく伸びます。ハンギング仕立てが育てやすいです。ランナーの出ない「シャムオリヅルラン」は葉も短くコンパクトに育てられます。



Point 生育が旺盛で、根が太く根詰まりを起こしやすいです。大きくしたくない場合は1~2年に1回、根を半分ほど切り落として同じ鉢に植え直すと良いでしょう。

ガジュマル

難易度 ★
最低温度: 3°C

フィカス類の中でもかなり耐陰性と耐寒性が高く、育てやすい植物です。ただし、ずっと日光が弱いと枝が徒長気味になるので、春~秋は定期的に日光浴をさせましょう。



Point 生育が早く、芽吹きもよいので、伸びすぎた枝は好きな位置で剪定しても良いでしょう。肥料を控えめにした方が、しまった株になります。

テーブルヤシ

難易度 ★
最低温度: 5°C

寒さや耐陰性が強く、非常に育てやすい植物。強い光では葉が黄色みがけられます。生育は比較的早く、鉢を大きくしていくべき大株に育てるともできます。



Point 土の乾燥には耐えるので、気温の低い時期や日当たりの悪いところで育てる場合は、しっかり乾いたら鉢底から水がしみ出るまでたっぷりと水を与えます。

アスプレニウム

難易度 ★
最低温度: 5°C

別名「シマオオタニワタリ」や「オオタニワタリ」とも呼ばれるシダの仲間です。葉が順調に育つと葉の裏に「胞子のう」という茶色い塊が並んで現れます。シダの中でも乾燥に比較的強く、湿度が低い環境でも葉が傷みにくいです。



Point 直射日光を当てる、葉が茶色くぼろぼろになり枯れやすくなります。年中明るい日陰で育てる、葉が大きく柔らかく育ちます。



湿度あって水やりが楽ちん キッチンやバスルーム周辺

キッチンやバスルームは湿度が高く、水やりがしやすいメリットもあります。窓があるならばぜひ有効活用してみましょう。

メリット

- ・湿度が高めで乾燥しにくい
- ・水場が近く水やりがしやすい

デメリット

- ・バスルームは温度差が大きい場合がある
- ・方角によっては光量が不足することがある

個性派

ビカクシダ

難易度 ★★
最低温度: 5~10°C

別名「コウモリラン」と呼ばれるシダ植物です。シカの角のような葉を伸ばす、独特のフォルムが魅力的です。鉢植えだけではなく、壁掛けやコケ玉に仕立てて楽しむ人が増えています。様々な品種があり、多くの品種は10°C以上あれば問題なく育ちます。



ビカクシダ

チランジア

難易度 ★
最低温度: 7°C

別名「エアープランツ」として知られ、形や大きさも豊富です。土を必要としないため、気軽に栽培できるのが大きな魅力の一つです。



チランジア・イオナンタ

Point 強い乾燥は苦手ですが、ずっと植え込み資材が乾いているのも嫌います。資材が乾いたらすぐにたっぷりと水を与えます。ビカクシダには株元を覆う「貯水葉」とシカの角のような「胞子葉」があり、水は主に貯水葉の裏面から吸収されます。その部分にしっかり水を与えましょう。

Point 土に植えず育てます。立派に育てるには風通しが良いことがとても重要です。水は好きですがずっと株が濡れたままは苦手で、半日で乾くことが理想です。週3回ほど霧吹きをすると良いでしょう。春から秋は戸外の半日陰で雨に当てる育てるとぐんぐん成長します。



温度に
注目!

キッチンは室温とさほど変わらないことが多いですが、バスルームは要注意。入浴後は温度が高くて、朝方はかなり冷え込むことがあります。置きたい植物が耐えられる温度なのか、しっかりと確認しておきましょう。

上級者向き

洋ラン

難易度 ★★★
最低温度: 15°C

洋ランを板などに着生させて、観葉植物として鑑賞する人も増えています。栽培が難しいイメージが強いですが、コチョウランは初心者向きで湿度と温度があれば花を咲かせることも容易です。根を露出させて育てるバンダの仲間など、面白い種類もたくさんあります。



アスコフィネエチア
'ライオンスター'

Point 洋ランの多くは水ゴケやバークで植えられています。常に植え込み資材が湿っていると根腐れを起こします。必ず乾いて鉢が軽くなつてから次の水やりをしましょう。根を露出させて栽培している場合は、根に向けて毎日霧吹きをします。

水が大好き

シダ類

難易度 ★★
最低温度: 5°C

涼し気で爽やかな印象の「アジアンタム」、美しい葉でコンパクトに育てられる「プテリス」、ふんわりと葉が広がる「ネフロレピス」など種類も豊富です。半日陰の柔らかい光で、高温になりすぎない場所を選びます。乾燥に弱いので、常に湿度が高いところで風通しよく育てます。



ネフロレピス

ホヤ&
ディスキディア

難易度 ★★★
最低温度: ホヤ / 5°C、ディスキディア / 10°C

やや多肉質な葉が特徴で、岩や幹などにつるを張りつかせる着生植物です。

「サクララン」の名前で流通するホヤ・カルノーサは長く伸びたつるに、とてもかわいい花を咲かせます。ディスキディアはホヤに姿がよく似ていますが、花は非常に小さく目立ちません。



ディスキディア
'ナムコック'

Point 土の過湿を嫌うので、乾きの早い観葉植物の土や、水ゴケ、ヤシ殻などで育てます。空中湿度は高めが好きなので、葉水※は毎日与え、土がしっかり乾いてから水を与えます。

※葉水: 霧吹きなどで植物の葉に水を与えること

食中植物

難易度 ★★★
最低温度: 5~15°C

子どもにも人気の虫を捕らえて食べる植物です。最近ではホームセンターでも色々な種類が増え、簡単に入手可能です。「ネペンテス(ウツボカズラ)」は寒さに弱く、15°C以上は必要です。「ムシリスミレ」は花も咲きやすく初心者向きです。



ネペンテス
(ウツボカズラ)

Point 乾燥させないよう年中受け皿に常に水を張り、鉢底から吸水させるように管理します。ネペンテスは日当たりが悪く、乾燥するところでは袋ができにくくなります。虫はあえてあげなくても、良く育ちます。

土や鉢いらずで簡単に エコでクリーンな栽培を楽しむ



コチョウランの水耕栽培

洋ランを観葉植物として根や葉の成長を観察する栽培がひそかなトレンドになっています。コチョウランは水耕栽培が可能で、着生栽培よりも簡単に植え替えなしで長く育てることができます。

水耕栽培で用意するもの

容器

容器は根がゆつたり収まり、出し入れしやすいもの。口が広い寸胴のものがおすすめです。



培養液 (5000倍溶液の作り方)

1000倍希釈タイプの液体肥料を5000倍程度に薄めたものを水耕栽培の培養液にします。液体肥料は鉢花用でOK。

【作り方】500mlのペットボトルに100mlずつ印をつけておきます。液体肥料の原液を1mlを入れ一番上の線まで水を入れると500倍溶液になります。利用するときは1Lの容器に500倍溶液を100ml分入れ、容器を満水にすれば約5000倍になります。



株の処理

①植え込み資材はすべてきれいに取り除き洗い流し、枯れた根や腐っている根は消毒したハサミで切り落とします。



②容器に水を入れないまま、1~2日陰干しして一度根を乾かします。



③乾いたら、根がすべてつかるよう5000倍溶液を入れます。葉の付け根が浸からないよう注意！



管理サイクル

通年、1週間を次のサイクルで溶液管理していきます。

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
満水			根の先1cm程水につかる量		乾燥	

溶液に日光が当たると藻が生えやすくなるので、週に1~2回容器内を中性洗剤で洗いましょう。

真夏などの気温の高い時期や冬季の暖房による湿度不足では根の乾燥が早くなる場合があるので、根にしわが多く寄るようなら6日目まで水につけて、乾燥を7日目だけにします。開花期や蕾が多く出る時は特に乾燥させすぎないよう注意します。

着生栽培

コルク板やバーク片、流木などに植物をくっつけて育てる着生栽培は、自生地を再現したような野性味あふれる魅力があります。ある程度厚みがあれば、シンプルな木片や板でも大丈夫。とても簡単にできるので、ぜひチャレンジしてみましょう！

着生向きの植物

ビカクシダ、チランジア、ホヤ、ディスキディア、洋ラン類（コチョウラン、バンダ、デンドロビウムなど）、ネオレゲリアなど
本来は上に根を張らず、樹上や岩肌に根を張る植物

着生栽培で用意するもの

着生させる板

コルク、バーク片、木板、ヘゴなど厚みのあるもの

水ゴケ（必要あれば）

一晩ほど水で戻して、水をしぼったもの

テグスや針金結束バンド

風化しづらいもの。
麻ひもやビニールひもは劣化するので避けます

穴を開ける道具（必要あれば）

キリやドリルなど

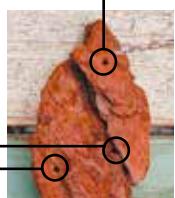
LEVEL 1 チランジア

針金で吊るすだけでもかわいいですが、板付けするとワンランクアップさせることができます。

吊下げワイヤーを通す穴

①着生させる板に針金を通すための穴を2か所あけ、上部には吊下げワイヤーを通す穴のあけます。

板に針金を通すための穴



②針金を穴に通して、チランジアを固定します。水ゴケはなくても大丈夫。この時、針金の締めすぎに注意しましょう。葉と葉の間に通すと固定しやすいです。



③ぐらつくようならさらにテグスで巻きます。



④吊下げ用の穴にも針金を通して完成です。

着生させる板が乾いていくと根付きにくいので、板はこまめに霧吹きしましょう。



LEVEL 2 ビカクシダ

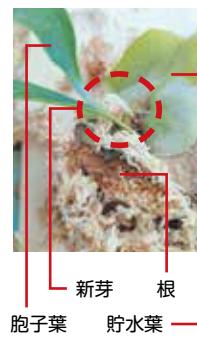
以前よりもお手頃に入手しやすくなったビカクシダ。100円ショップで手に入る穴あけ不要のカッティングボードを利用して、簡単に着生栽培を始めてみましょう。

①鉢や着生させていた板から外し、古い水ゴケや土を1/3程度落とします。根の張りが弱い場合は、軽くほぐす程度にします。



③胞子葉の新芽が伸びている側が上になるよう、株を配置します。

丸い貯水葉がなく、根が露出しているところは新しい水ゴケで覆います。貯水葉がある場合は、水ゴケで覆わず、そのまま表面に出しておきます。



⑤新芽の上下を通るように、針金で固めに板へ固定します。



②ボードの下部に、軽く水を絞った水ゴケを置きます。水ゴケが少なすぎると乾燥しやすいので、こぶし大位の量を目安にしましょう。



④下の水ゴケと隙間がないように、水ゴケを追加しながら、全体をなじませて形を整えます。



完成直後は水ゴケや針金が目立ちますが、着生させてから一年ほど経つと、株元は新しい貯水葉に覆われ、針金などは見えなくなります。



管理方法

貯水葉がない状態では乾燥しやすいので、水ゴケが乾いたらすぐにたっぷりと水を与え、こまめに全体に霧吹きもしましょう。乾燥が強すぎる時は、根の周りのみラップを巻いて、数か所通気孔をあけて保湿してもよいでしょう。

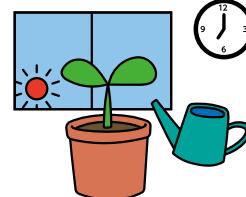
失敗しない

観葉植物の基本の管理

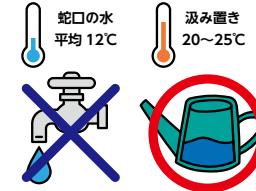
水やりのポイント

水やりは生育が左右される、もっとも重要で一番難しい作業です。タイミングとやり方をしっかりマスターするとのびやかに育ちます。

気温が高い時間はさける



水の温度は室温くらい



底から出るまでたっぷり



春～秋の生育期に気温があがる前に、体内にしっかり水を含ませることが重要です。朝8時前までが理想です。朝早くにやれない場合や、真夏のように朝から気温が高い季節ならば、夕方に与えておくのもよいでしょう。

蛇口から出た冷たい水をいきなり与えるのはNG! 根が風邪をひいてしまいます。汲み置きをして室温になった水を与えるのがベストです。カルキも抜けるので、根が順調に育ちやすくなります。

株元や表面だけサラッとやる水やりは、根に水が届いていないこともあります。肝心の水分を吸い上げる根は、鉢の縁や底に集中しています。鉢底から水がしみ出てくるまでしっかりと与え、鉢の中の古い空気も一緒に入れ替えます。

よく育つコツ

必ず土が乾くタイミングを与えること

根は呼吸をしており、必ず酸素が必要になります。常に土が湿っていると、酸素が届かず根が呼吸困難になります。その結果、根腐れを起こしてしまいます。土が乾くと空気が入り、根に酸素が供給され、そのタイミングで根は成長をします。乾湿のメリハリをつけることが、良い根をたくさん増やし、元気に植物を育てるコツです。

小さな鉢の場合は、鉢の重さが軽くなったら、大きな鉢の場合は、土の表面全体が白っぽく乾いた状態になってから水を与えると失敗が軽減されるでしょう。

観葉植物におすすめの肥料

肥料はたくさん種類があり、どれを使うか迷うかもしれません。自分のタイプに合わせて選択してみるのも良いでしょう。

世話焼きタイプ

水も肥料もこまめにやりたい!

液体肥料



肥料やけを起こしにくく、初心者でも失敗が少ない肥料。観葉植物ならば1000～2000倍希釈を週に1回程度与えます。観葉植物専用の液体肥料はマグネシウムなど微量要素も含まれ、葉の色を美しく保つことができます。



※2倍の薄さ(2000倍希釈)を作る場合は水を2Lにします。

放任タイプ

あまり手間をかけたくない…

固形肥料

植え替え時に土に混ぜる元肥タイプと、土の上に置く追肥タイプがあります。効果が1か月～2年と期間も様々あります。

元肥タイプ

土にいれておくと、根から出る酸でゆっくり溶けだします。根の生育に合わせた量が出るので、肥料やけがしづらく効果も1年ほど長く続きます。



追肥タイプ

土の上に置くだけなので、とても簡単です。2～3か月ほど効く商品が主流です。肥料の効きが良い分、多く与えると肥料やけを起こしやすいので、必ずパッケージを確認して適量を守りましょう。また、新しい肥料に交換するときは、溶け残りのかたまりなどの古い肥料は必ず取り除きます。



一年中与えてもよい?

観葉植物は鉢花に比べ多くの肥料は必要ありませんが、春～秋の生育期に与えると元気に育ちます。冬は日差しが弱く、生育が緩やかになるため、根からの肥料の吸い上げが落ちるので基本的には与えません。どうしてもあげたい場合は、生育期の2～3倍ほど薄くしたものを与える程度にしましょう。(通常1000倍なら2000～3000倍にする)

はじめてでも簡単

土づくりをマスターしよう

使う土次第で植物の成長は大きく変わります。最初の土づくりがうまくいけば、水やりで失敗することも少なくなり、管理が楽になる場合もあります。植物に合った土のブレンドを知っておくと、より栽培を楽しめます。

観葉植物でよく使う基本用土

ベースになる基本用土

赤玉土

全ての植物に使うことができる、無機質の基本用土です。小粒～中粒をメインで使用します。



火山レキか軽石

崩れにくく、多孔質で空気を含みやすいので、入れる量で土の水はけを変えることができます。



腐葉土

植物の成長を助ける微生物のエサとなる有機物です。用土の3割程度入るのがベストです。



必要に応じて使用する基本用土

ピートモス

泥炭を乾燥させた酸性の土壤改良剤です。肥料分はなく、とても軽いです。土に入れると、水持ちが良くなります。



バーミキュライト

蛭石を高温で焼いて膨張させたものです。とても軽く通気性が良いのが利点です。水持ちも良いです。



パーライト

火山岩を高温で加熱して水分を飛ばしたもので、多孔質で軽く、通気性が良いのが利点です。



基本用土の代わりに使われるもの

水ゴケ

洋ランや着生植物などによく使われ保水性と通気性に優れています。水で戻して利用します。



ヤシガラ

ヤシの実の皮を細かくしたもので、保水性と通気性に優れ軽いのが特徴です。使用前に水に浸ける作業(アク抜き)をしてから利用します。



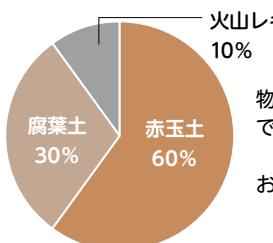
ハイドロボール

粘土をボール状にして高温で焼いて発泡させたものです。水耕栽培で利用します。



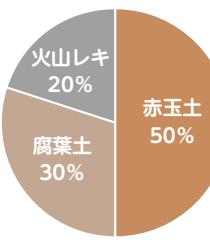
育てやすい土の配合

一般的な土



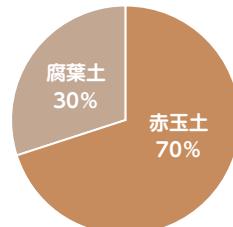
多くの観葉植物に最適な配合です。鉢花全般にもおすすめです。

水はけが良い土



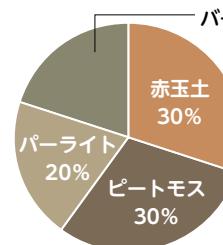
根腐れしやすい観葉植物や8号以上の大鉢向きの配合です。ついつい水を多くあげがちな人にも向いています。

水もちが良い土



シダなど水切れに弱い植物向きの配合です。さらに水持ちを上げたいならピートモスを1割入れると良いでしょう。

ハンギングの土



観葉植物や鉢花のハンギング栽培に向く配合です。

市販の培養土とはどんなもの？

基本用土をベースにさまざまな資材を配合して、そのまま利用できるようにしたのが市販の培養土です。

観葉植物用の培養土

水はけの良さを重視して配合されており、パーライトやバーミキュライト、ピートモス入りは水持ちが良いため、観葉植物によっては根腐れしやすい場合もあります。

花や野菜用の園芸培養土

観葉植物用より有機質が多く、ピートモス入りは水持ちが良いため、観葉植物によっては根腐れしやすい場合もあります。

市販の培養土でうまく育たない時は…

市販の培養土：赤玉土 = 1 : 1 の割合で配合してみましょう。水もちや肥料もちが良くなり、バランスの取れた土を作ることができます。



限られたスペースでも大丈夫

コンパクトに育てる植え替え・株分け

室内の限られたスペースで育てると大きくなりすぎて困ることも少なくありません。植え替えをするたびに鉢を大きくしていくと、どんどん根が伸び、それに比例して地上部も大きくなります。根の生育を上手に制限することでコンパクトに育てることが可能になります。

植え替え

植え替えの基本

多くの観葉植物は春か秋が植え替えに向いています。特に生育期に入る前の春(4~5月)が、回復しやすくおすすめです。小さい鉢なら1~2年、大きい鉢なら2~3年に1回植え替えましょう。

植え替え時に根をバッサリカット! 例:パキラ

①根がパンパンに張り、底の部分は根がぐるぐる巻きになっている状態。



②根をほぐすように古い土を落とします。



③根を1/3ほどバッサリと切り落します。全体的に一回り小さくなるように整えます。



Point 真夏や冬は根を切り詰めない

気温が高い時期は葉からの水分蒸発が多くなり、根が少ない状態では、一気に水分不足で弱ってしまいます。また冬は新しい根が出にくく、回復が遅くなります。真夏や冬にやむを得ず作業する場合は、極力根を切らないよう、軽く古土を落とす程度にしましょう。

鉢の大きさは同じか一周り上を選ぶ

植物の背丈に合わせて鉢を選んでしまうと、大きな鉢を選びがちです。根がしっかりとおさまる、一周り上の鉢を選びましょう。株を大きくしたくない場合は同じ大きさの鉢に植え直します。



新しい培養土をしっかり突き込む

水はけを良くするため、鉢底に鉢底石を並べます。新しい培養土を隙間が出来ないよう棒などで突き込みます。鉢の縁から親指の第一関節分下がる程度まで、土を入れます。



根を切ったら地上部もカットする



植え替え前

植え替え後

根から吸いあがる水分量が減るため、地上部の蒸発量を抑える必要があります。剪定することで葉の量を減らしバランスをとります。根を1/3落としたら、地上部も1/3カットすると考えましょう。



枝を切るのに抵抗がある場合は、葉を半分にカットしてもOK。

株分け

地下茎を持ち、株元から次々と芽が出て増えるタイプの観葉植物は株分けで小さくすることができます。

株分けが可能な植物

スパティフィラム、ピレア、カラテア類、サンスベリア、シダ類、オリヅルランなど

例: シダ (フレボディウム・オーレウム 'ブルースター')

①鉢から抜いて、根鉢にハサミを入れます。②小さく分けすぎないよう、2等分~3等分程度の大きさにします。③根をほぐし1/3程落とします。④同じ大きさの鉢に植え直します。



植え替えや株分け後は…

置き場

作業した後は必ず温度変化の少ない明るい日陰で1週間養生します。その後、徐々に元の置き場所に慣らしていきます。

水やり

作業後はすぐに底から出るまでたっぷりと与えます。その後は根が少なくなっているので、しっかりと土が乾いてから水をやり、徐々に元の水管理に戻します。

肥料

肥料は作業後、1か月たってから再開します。薄い液体肥料から始めると植物に負担が少くなります。

剪定

剪定は植物のアンチエイジングには欠かせない作業。よくありがちなパターン別に適切な剪定を紹介します。

パターン1 葉がどんどんなくなり、先端にしか葉がついていない

よくある植物

パキラ、シェフレラ類、フィカス類（ゴムの木、ベンジャミン、ガジュマルなど）、コーヒーノキ、ユッカ、ドラセナ類、オリーブ、アボカドなど

暖かい季節にバッサリと切り戻す

多くの観葉植物は芽吹きがいいものも多く、冬を除き、思い切って幹の途中で切れます。2週間～1ヶ月ほどで節から新芽が出始めます。木化が進んだ部分は芽は出にくいですが、遅くなりながらも出てきます。心配であれば一度に葉がなくなるまで全体を切らず、半分～1/3ずつ部分的に行うのも良いでしょう。



パターン2 どんどん伸びるので頻繁に剪定していたら、わき芽が出すぎた

よくある植物

ガジュマルやベンジャミンなど

いらない枝を間引く

生育が早く、芽吹きの良い観葉植物は切れば切るだけ必ずわき芽が発生します。日光が当たらない枝や葉が増えてきた場合は、風通しが悪くなりカイガラムシなど病害虫が発生やすくなります。弱い枝や不要な枝は枝元で切り落として間引きましょう。



株の向こう側が軽く透けて見えるくらいが良いでしょう。間引くのは季節問わずいつでも行えます。

パターン3 下葉が枯れて、株元と土が丸見えになった

よくある植物

ポトス、ピレア、シンゴニウム、ベゴニアなど

株元1/3程残して 切り戻す

植え替え時や春の生育開始前に、株元1/3程度残してバッサリ切れます。株元から新芽が出てきて再び株全体をこんもり覆うように葉が茂ってくれます。



株元の葉がない状態 鉢の縁に沿ってばっさり剪定します

枝を曲げる ウラ技！

枝を曲げると、剪定なしでも枝の伸びを抑えつつ、わき芽を多く出させることができます。フィカスやドラセナなどは、曲がり仕立てにしやすく、自分だけの面白い形の株を作ることも可能です。

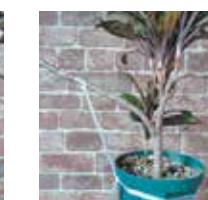
しっかり曲げるなら



針金は2mm前後の太さで、柔らかい枝ならアルミ線、固い枝や細かい癖をつけたいならビニール被覆のスチール線を使います。

曲げたい幹の部分に枝元から枝先方向へ斜め45度に巻いていきます。強く曲げるなら鉢にひっかけても良いでしょう。

軽く曲げるなら



軽く曲げる程度なら、ビニールひもや支柱を使うのも簡単です。

Point

木化が進んだ枝や、太い枝は力を入れすぎると折れることもあるので、緑の枝の時から徐々に曲げを加えていくと失敗が少なくなります。

曲げてから半年～1年はそのまま固定しておきます。成長によって針金やひもが食い込むことがあるので、様子をみて緩めて仕立て直しましょう。

観葉植物につきやすい病害虫

日当たりや風通しの悪い室内で育てていると、起こりやすい病害虫トラブル。こまめな観察と早期発見が大切です。

アブラムシ

吸汁性害虫で年中見られ、短期間で爆発的に増えます。新芽や若い葉によく発生し、ウイルス病を媒介することもあります。甘い分泌液を出すため、周辺の葉や鉢周りがベタベタする場合があります。



Point

窒素肥料を多く与えすぎると、アブラムシを寄せ付ける原因になります。葉を密集させないよう風通しの良いところで管理します。

カイガラムシ

吸汁性害虫で年中見られます。粒状、白い綿状など姿形は様々です。葉の裏や枝の付け根に潜みます。甘い分泌液を出すため、周辺の葉や鉢周りがベタベタする場合があります。分泌液によりすず病も誘発します。



Point

成虫は葉が効きづらいので、歯ブラシなどでこすり取ってから薬剤を散布します。風通しの良いところで管理します。

ハダニ

吸汁性害虫で年中見られ、葉の裏に潜む非常に小さなクモの仲間です。特に高温乾燥で多発します。数が多くなると葉の表面が白くカスリ状になります。被害が重になると草花では落葉して枯れることもあります。



Point

水に弱いので葉の裏にまめに散水します。高温期は水切れで葉を痩せさせないようにします。

うどんこ病

風媒病害で若い葉や茎に、うっすらうどん粉をまぶしたような症状が発生します。冷涼で多湿な時に発生しやすくなります。逆に真夏の高温期には発生が少くなります。



Point

窒素肥料を多く与えすぎると、発生やすくなります。風通しの良いところで管理します。発生前に殺菌剤で予防するのが大切です。

どんな薬剤を選べばよい?

初心者でも使いやすなら

スプレータイプ

殺虫と殺菌が一度にでき、希釈せずにそのまま手軽に散布できます。薬剤の扱いに慣れていない方や、鉢の数が少ない方には一番使いやすいでしょう。

手間を少なくしたいなら

粒剤タイプ

土に混ぜたり、まいたりするだけで、根から薬剤が吸収され、害虫の予防ができます。病気と両方効くタイプもあります。植え替え時の土にあらかじめ入れておくと効果的です。

コスパを重視するなら

希釈タイプ

鉢の数が多い、病害虫の発生が大量なら、たくさん薬剤を作ることができる希釈タイプがおすすめ。ただし噴霧器や霧吹きが必要です。殺虫剤と殺菌剤を2種類混合することも可能です。(例外もあり)

化学農薬を使いたくないなら

オーガニックのスプレータイプ

還元でんぷんや油、有用菌といった天然由来成分を用いた薬剤で、小さなお子様やペットがいる方にも安心です。やや効き目が弱い場合があるので、こまめに散布するのがおすすめです。

選ぶときのPoint

どんな害虫か病気かをまず調べる

薬剤ごとに効果がある害虫・病気が違います。適用がないものを使うと、思ったような効果が得られない場合もあります。自分で判断しづらい場合は、専門家に相談した上で薬剤を選びましょう。

殺虫剤か殺菌剤かを確認する

薬剤の種類は大きく「殺虫剤」・「殺菌剤」・「殺虫殺菌剤」に分かれます。パッケージをよく確認して、用途に合った薬剤を選びましょう。

使用時のPoint

希釈タイプは濃度に注意

濃い薬剤を散布すると、葉害を起こすことがあります。薬剤ごとに希釈倍率は変わりますので、説明書をよく読み濃度をしっかり守りましょう。

散布しすぎに注意

オーガニックタイプ以外は年間に使える散布回数が決まっています。散布しすぎは逆に植物を弱らせることもあるので、注意します。

高温時に散布しない

日中など温度が高いときや、天気が良いときは葉害を起こしやすくなります。曇天の朝か夕方に散布しましょう。

よくあるトラブル Q&A

Q. 葉が急に茶色や白くなります

A. 葉焼けかもしれません

暗い場所から急に日当たりのよい場所へ移すと、葉焼けを起こすことがあります。日光が良く当たる部分だけが茶色や真っ白に変色したら要注意です。また、気温の高い時期に葉に水がかかると、水滴がレンズの役割をして葉焼けを起こすことがあります。

Q. 葉の色が黄緑っぽくなります

A. 光が強すぎるかもしれません

室内で育つ観葉植物は直射日光のような強い光が苦手なものも多く、日光が強いと葉の色が淡く黄色みがかることがあります。日光が弱くなるにつれ、光合成の効率をあげるために葉緑素が増やすので、緑が濃くなります。

Q. 水はやっているが葉に張りがない

A. 水不足です。土の全体に行き渡るよう水やりましょう

土が乾きすぎていたり、根が張りすぎていると、土に水がしみこみづらくなります。水を与えるとあっという間に底から出る時は、鉢の内側を流れて出ているだけの可能性もあります。コーヒーをドリップするイメージで、水を2、3回に分けて静かに、土になじませながら与えましょう。土の乾燥がひどい場合は一度、鉢ごと数分水に浸して、土にしっかり水を含ませるのも良いでしょう。

Q. 日当たりが良いのに葉は薄く、元気がない

A. 暑すぎるかもしれません。高温を避けて、早めの水やりを心がけましょう

日当たりの良い南～西向きは、気温が高い時間に日光が差し込むため、葉の表面や鉢の中の温度が非常に上がりやすくなります。葉の温度を下げるために、植物は葉からたくさんの水分を蒸発させます。同時に根からは蒸発する水分の3～4倍の水分が吸い上げられます。水が足りないと葉がどんどん薄く色つやが悪くなります。気温の高い時期は遮光し、土の表面が乾いたら、早めに水をやって土の乾燥を未然に防ぎましょう。

Q. 葉がかすれたように白くなります

A. ハダニが原因です

乾燥と高温が続くと、ハダニが発生しやすくなります。真夏や冬季に暖房の効いた風通し悪い室内は、ハダニには最適の環境です。ハダニは発生すると葉が効きづらく、爆発的に増えるため、日頃の観察と早期発見が重要です。予防には葉をこまめにふき取ったり、葉水をかけるのも良いでしょう。

Q. 葉の先が枯れてきます

A. 根腐れ、水切れ、根詰まりが考えられます

葉先が枯れるのは、何らかの原因で根が傷んだサインです。

- ・根腐れ…常に土を湿った状態にせず、しっかり土が一度乾くタイミングを作り、根に酸素が届くように水やりをしましょう。
- ・水切れ…水を吸う根は鉢底や鉢の縁に多く存在します。表面が湿るだけの水やりではなく、鉢底から出るまでたっぷりと与えます。
- ・根詰まり…新しい根が伸びるスペースがないほど根が回ると、うまく水を吸い上げができなくなります。水をやってもスムーズに土にしみ込んでいかなくなります。2～3年に1回を目安に植え替えを行いましょう。

Q. 下の方の古い葉から黄色くなって枯れています

A. 植物の新陳代謝による生理落葉です

下の方の古い葉が少しづつ落ちていく場合は、植物の新陳代謝によるものです。新しい葉が順調に出ているようなら、特に心配はありません。湿度や温度によって植物は自分が保てる葉の数に増減させます。特に、暖房が入る季節は湿度が下がるのでよく落ちやすくなります。ある程度したら、落葉は落ち着きますので様子をみましょう。

Q. 葉の先から水滴が出ます

A. 溢沁(いっぴつ)による生理現象です

パキラやクワズイモ、ポトスなど、水やりをした次の日によく見られます。根から吸い上げた水分が多かった場合、植物は葉にある水孔と呼ばれる部分から排出します。溢沁が出るのは、元気に活動している証拠です。水やりから数日で落ち着きます。

令和6年度札幌市都市緑化基金事業報告

1 植樹などによる民有地緑化事業

●記念樹プレゼント

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の結婚、出産、新築、入学などの人生の節目のお祝いに際して、自宅の庭などで苗木を育てることを目的に、姫ライラックやアナベルほか、北海道日本花の会・中道リース株式会社様から寄贈のエゾヤマザクラ等、10樹種の苗木、合計811本を配布しました。

- ・令和6年6月9日(日)百合が原公園にて配布



●緑化ツタ苗の補助

民有地緑化の推進を図るため、自宅や事業所等の塀や建物をツタで覆う壁面緑化を計画する札幌市民にナツツタの苗を配布しました。

2 緑化推進に関する普及啓発事業

●キラリ！さっぽろ公園30選2024

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地で撮影した緑や花、憩いのひととき、自然とのふれあいなどがテーマのWEBフォトコンテストを開催し、グランプリ1点、準グランプリ2点、キラリ賞27点を選考しました。

- ・応募数：125名 / 611点



2024年グランプリ作品

●第58回「緑の絵」コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象に緑をテーマとした絵画コンクールを開催し、入賞作品48点、最優秀学校賞2校を選考しました。

- ・参加学校数：71校 / 応募数480点
- ・最優秀学校賞
札幌市立北九条小学校、札幌市立米里中学校
- ・表彰式
令和6年12月14日(土)さっぽろテレビ塔ホール
- ・入賞作品展
令和6年12月13日(金)～12月17日(火)
札幌駅前地下歩行空間(チカホ)北大通交差点広場



小学生の部

中学生の部

●講習会「春待つ秋の寄せ植えコンテナづくり」

身近な緑を増やす一助となるよう、参加者が持ち帰ることが可能なサイズのコンテナを用いて、雪の下で越冬するパンジー・ビオラと雪解け後すぐに開花するチューリップの球根を使った寄せ植えづくりの講習会を行いました。

- ・令和6年10月29日(火) 豊平公園緑のセンター講義室
- ・受講者：34名

●さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム2025春

園芸家・杉井志織さんによる講演会を開催し、新たな発見や共感を通じて、札幌の緑化活動の推進を図りました。

- ◆第1部 / 講演会
「らくちんガーデニング」を楽しむ小さな魔法のお話
- ◆第2部 / 寄せ植えの公開レッスン
春の花色コーディネート～花木と草花の寄せ植え～
 - ・令和7年3月23日(日) 札幌ガーデンパレス
 - ・参加数：200名



3 都市緑化サポーター養成事業

●さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターの養成を目的に、まちづくりや園芸等の知識、技術を講義と実習で学ぶ連続講座を開講しました。

- ・開催期間：令和6年4月6日(土)～11月9日(土)
- ・内容：各テーマによる講義と実習(全17回)
- ・受講者：20名



4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

●フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化などを図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを3年間無料で貸し出しました。初年度には花苗と培養土を提供しました。

- ・貸出数3団体60基(花苗300株)

5 緑のまちづくり活動への助成及び支援

● さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営

花と緑のまちづくり活動に役立つ体験実習や講習会のほか、相互交流ができるイベントなどを開催し、市民の花と緑のまちづくり活動の推進を図りました。

※さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業受託業務

さっぽろ花と緑のネットワークとは？

「さっぽろタウンガーデナー（個人登録）」「花と緑のボランティア団体」と、それを支援する「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」の相互のつながりの総称です。

登録者数（令和6年12月末現在）

- ・花と緑のボランティア団体 37団体
- ・さっぽろタウンガーデナー 319名

【お問い合わせ先】 さっぽろ花と緑のネットワーク事務局

TEL. 011-251-3309 (平日 8:45 ~ 17:15)

<https://www.sapporo-park.or.jp/flowers/>



札幌市都市緑化基金へのご協力のお願い

札幌市都市緑化基金は、皆様からの寄付金を積み立て、その果実（利子）で民有地の緑化や緑に関わる普及啓発を進めていくものです。私たちの街札幌を次代の市民に誇れるより緑豊かな魅力ある街にするため、札幌市都市緑化基金へご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寄附のお申し込みについては、専用の寄附金等申込書の用紙に必要事項をご記入のうえ、お手続きください。

【お問い合わせ先】 公益財団法人札幌市公園緑化協会

TEL. 011-251-2579 (平日 8:45 ~ 17:15)

寄付金等申込書は札幌市公園緑化協会寄付金の募集についてのページからダウンロードできます。

<https://www.sapporo-park.or.jp/support/>



園芸に関するご相談 緑の相談コーナーのご案内

直接お越しになるか、電話でも相談をお受けしています。

豊平公園緑のセンター 緑の相談コーナー ☎ (011)811-9370

- 住 所：札幌市豊平区豊平5条13丁目
- 相談日時：休館日を除く毎日 10時～12時、13時～16時
- 休 館 日：月曜日（月曜日が祝日の場合は次の平日）、年末年始（12/29～1/3）

百合が原緑のセンター 緑の相談コーナー ☎ (011) 772-3511

- 住 所：札幌市北区百合が原公園210番地
- 相談日時：4月中旬～11月上旬の毎週木曜日、日曜日
10時～12時、13時～16時
- 休 館 日：月曜日（月曜日が祝日の場合は次の平日）、年末年始（12/29～1/3）

平岡樹芸センター 緑の相談コーナー ☎ (011)883-2891

- 住 所：札幌市清田区平岡4条3丁目1-1
- 相談日時：4月29日～11月3日の毎週水曜日、土曜日
10時～12時、13時～16時
- 休 館 日：月曜日（月曜日が祝日の場合は次の平日）、11/4～翌年4/28 休園

著者の紹介

いしがき みゆき
文・写真 石垣 美深

公益財団法人札幌市公園緑化協会 豊平公園勤務
豊平公園緑の相談員として、園芸に関する市民からの幅広い相談に応じているほか、園芸講習会の講師として活躍中。



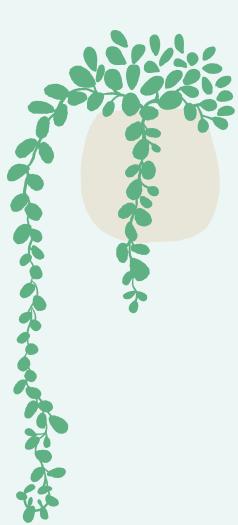
すぐすぐみどり No.33 (令和7年3月発行)

「緑のインテリア 観葉植物を愉しもう」

編集・発行

公益財団法人 札幌市公園緑化協会

〒060-0031 北海道札幌市中央区北1条東1丁目6番地16 アルファ北1条ビル 4階
TEL: 011-211-2579



すぐすぐみどりは札幌市公園緑化協会ホームページ
札幌市都市緑化基金のページからダウンロードできます。

<https://www.sapporo-park.or.jp/kikin/>



この冊子は札幌市都市緑化基金への寄付をもとに製作しています。

